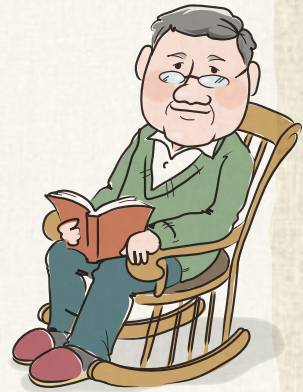


「秋の猫」



著者/藤堂 志津子
集英社 ¥1,575 (単行本)
発行/2002年11月
ISBN/ 4087746216

著者/藤堂 志津子
集英社 ¥500 (文庫本)
発行/2005年10月
ISBN/ 4-08-747868-8



「こんなはずではなかった。こんな生活になるとわかっていたなら、もっとたくさんのことを覚悟しておくべきだったのだ。けれど私は深く考えもせずに、ただ可愛い、欲しい、一緒にいたい、という思いからだけで飼ってしまった。」と云う書き出しで始まる藤堂志津子著「病む犬」は、独身女性とマシユと名付けられたロングコートチワワの物語です。

飼いだめた直後からマシユは下痢を繰り返し、夜のクリニック通いが始まります。初診の日、彼女は「マシユのお母さん」と呼ばれて飼い主の事を、お父さん、お母さんと呼び合う習慣に戸惑いを覚えるのですが、いつしか「お母さん」と呼ばれた時の抵抗感も消え、新しい役まわりを、まんざらでもなく受け入れて行きます。腸炎の治療費が8,500円、そこから外耳炎の治療、消化不良、ストレス性の胃腸炎、風邪、結膜炎、肛門囊炎の手術、と病気のオンパレード。やがてマシユの治療費は彼女の生活費に食い込み、スト1枚でのぐ日が多くなって行きます。それで

も彼女はマシユを手離しません。何故か? 「一日の勤めをおえて自宅アパートのドアをあけたとき、身をふるわせ、目を輝かせて全身全霊で私の帰宅を喜ぶマシユの姿を見ると、私は、必要とされている自分を実感できた。真夜中にふっと目がさめ、手を伸ばして私の足もとで小さく丸まっているマシユの体につれるたび、私は、ひとりぼっちではない自分を噛みしめた。・中略・」

その愛情はとても安定していた。相手にはぐらかされず、肩すかしをくわされることが約束されていると、ひとはこんなにも安心して心ゆくまで相手を愛することができるものだと、私は、はじめて知った。計算も、かけ引きもない、まったくさらな愛情で。」

そして10カ月目を迎えたころ、アトピー性の皮膚炎を発症、注射代が月に3万、3か月で9万と告げられるに及んで、いよいよ現在の収入では生活がおぼつかなくなった彼女は決意を固めます。「マシユのためならば、私は、どんなことも、なんだって、できそうだった。」彼女がとった行動とは? ・ ・ ・

「秋の猫」には5編の短編小説が収められていて、いずれも、女性の動物に対する献身的な愛と、男性に対する計算高さやしたたかさなどが描かれている、秀作ぞろいの短篇集です。